

# 第 1 回

## 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議

令和 3 年10月12日

### 会議要録

# 令和3年度 第1回 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議 会議要録

会議体の名称	令和3年度 第1回 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議	
事務局(担当課)	島田市市長戦略部戦略推進課	
開催日時	令和3年10月12日(火) 16:00~17:40	
開催場所	島田市役所4階第3委員会室	
議題	<協議事項> (1)島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価・検証について <報告事項> (1)地方創生推進交付金等事業について	
出席者	創生市民会議 構成員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 島田市自治会連合会 竹林常務理事</li> <li>・ 島田青年会議所 河村理事長</li> <li>・ (株)FM島田 八木社長</li> <li>・ 島田市小中学校PTA連絡協議会 荒波会長</li> <li>・ NPOクロスメディアしまだ 大石理事長</li> <li>・ 島田商工会議所 鈴木副会頭</li> <li>・ 島田市商工会 岡村会長</li> <li>・ 島田市観光協会 村田副会長</li> <li>・ 島田市農業経営振興会 仲田会長</li> <li>・ 島田商業高等学校 松本校長</li> <li>・ 島田市校長会 池谷会長(島田第二中学校長)</li> <li>・ 島田掛川信用金庫 原田地方創生室長</li> <li>・ 島田・榛北地区労働者福祉協議会 樋熊会長</li> <li>・ 島田公共職業安定所 小林所長</li> <li>・ 静岡県立大学(学生) 八峠友香(経営情報学部1年)</li> <li>・ 県立島田高等学校(生徒) 佐藤孝則(2年)(欠席)</li> <li>・ 県立島田高等学校(生徒) 山本翔太(2年)(欠席)</li> <li>・ 島田市 染谷市長</li> </ul>
	オブザーバー	静岡県中部地域局 鈴木局長
	市関係者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 牛尾副市長</li> <li>・ 濱田教育長</li> <li>・ 今村市長戦略部長</li> </ul>
	事務局	島田市市長戦略部戦略推進課 中村、興津、永田、酒井
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議構成員名簿</li> <li>・ 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議席次表</li> <li>【資料1】令和2年度第2期島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の総合評価書(案)</li> <li>【資料2】地方創生推進交付金等事業について</li> </ul>	

<開会の挨拶>

○市長戦略部長 皆様、御多用の所、御出席を賜り、誠にありがとうございます。本日の司会を務めさせていただきます島田市市長戦略部長の今村と申します。よろしくお願いたします。それでは、定刻となりましたので、ただ今から、「令和3年度第1回島田市まち・ひと・しごと創生市民会議」を開催させていただきます。

それでは、島田市長の染谷から、御挨拶を申しあげます。染谷市長よろしくお願いたします。

○市長 皆様、こんにちは。市長の染谷でございます。

本日は御多用の中、第1回 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議に御出席いただき、誠にありがとうございます。

また、今回、新たに構成員となられました皆様におかれましては、本会議に御参画いただき、大変嬉しく思っております。

この会議は、本市の特長を生かし持続可能な社会を創生する、まさに、官民一体となって地方創生の実現に向けて歩みを進めていくことを目的に設置されたものであります。

平成27年5月に第1回会議を開催し、同年10月には、「島田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」及び「総合戦略」を策定しました。この計画では、2060年における目標人口を8万人に定め、5年間の計画期間で主要な施策を位置付けています。

毎年度、取組の進捗状況について評価・検証を行っており、この市民会議の構成員の皆様からも御意見をいただきながら、計画を推進してまいりました。その結果、総合戦略策定前に6万人程であった2060年の将来推計人口が、最新の推計では、約2,300人上昇いたしました。

さらに昨年度からは、地方創生の実現をより深化させるために、「第2期総合戦略」に基づく取組に着手しています。

本日は、その進捗に関する評価、検証について、皆様から御意見を頂戴したいと思っております。

昨年から感染拡大している新型コロナウイルス感染症は未だに収束することがなく、私たちの日常生活や地域経済に影響を与えております。

こうした中でも、明るい話題としては、島田市では、30歳代及び9歳以下の年代の人口において、転入が転出を上回る「転入超過」傾向が、7年続いていることが挙げられます。

これは、子育て支援や移住・定住促進といった地方創生に向けた取組が成果として現れた一例であります。

今後もこのような成果を継続できるよう、構成員の皆様のお力を頂戴しながら、市民・事業者・行政の協働・連携を深めて参りたいと考えております。

さて、本日の会議では、先ほど申し上げた「令和2年度実績による第2期総合戦略評価結果」について、皆様から御意見を頂戴したいと思っております。

また、会議後半は、構成員の皆様との自由な意見交換の時間とさせていただきます。

様々な観点から御意見や御提言をいただくことで、本日の会議が有意義なものとなりますよう、皆様のお力添えを賜ることをお願い申し上げ、私の挨拶

とさせていただきます。  
本日はよろしく願いいたします。

- 市長戦略部長 ありがとうございます。  
続きまして、本年度初めての市民会議でありますので、自己紹介をお願いしたいと存じます。  
全ての皆様から御挨拶をお願いしたいと思います。

(会議出席者自己紹介)

- 市長戦略部長 ありがとうございます。  
なお、本日は、島田工業高等学校佐藤 孝則様、山本 翔太様が、所用により欠席となっております。  
それでは、早速、議事に入りたいと思います。議事を進めるにあたりましては、「島田市まち・ひと・しごと創生市民会議設置要綱」第3条に基づき、議長を染谷市長をお願いしたいと思います。

<議事(協議事項)(1)>

- 市長 それでは、議長を務めさせていただきます。  
皆様、よろしく願いします。早速、議事に入ります。  
本日の議事は、島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略に関する協議事項が1点、地方創生交付金等事業に関する報告事項が1点ございます。  
まず、はじめに、協議事項「島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価・検証について」事務局から説明をお願いします。

- 事務局 **資料1**の説明  
総合戦略の成り立ちと、第2期総合戦略の令和2年度実績による評価結果について説明  
・島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の説明  
・評価・検証(PDCAサイクル)の説明  
・評価結果の説明

- 市長 ただいまの説明について、質疑、御意見等はございませんか。

- A構成員 基本目標3のKPI「赤ちゃん訪問の訪問率」の対象者は全体で何人ですか。

- 事務局 597人でした。(資料1 p.23 参照)

- 市長 ありがとうございます。ほかによろしいでしょうか。  
この後も意見交換の時間がありますので、気になる点があれば、後半の意見交換の際に御質問いただければと思います。

<議事（報告事項）（１）>

- 市長 続きまして、報告事項（１）地方創生推進交付金等事業について事務局から説明をお願いします。
- 事務局 資料2の説明  
地方創生推進交付金等を活用した直近の事業について説明  
１．ICT推進プロジェクト事業  
２．新東名島田金谷IC周辺地区開発事業 賑わい交流拠点整備事業
- 市長 ただいまの説明について、質疑、御意見等ございませんか。
- A 構成員 賑わい交流拠点整備事業の説明がありました。ここでは、島田市で農業や農産物の加工をやっている方々の商品が売っているので、本日の参加者の皆様も購入していただけたら有難いです。是非応援してください。
- B 構成員 新東名島田金谷IC周辺の開発が進んでいますが、バイパスの4車線化や国道473号線など、交通インフラが整備され、利便性が上がると良いと思います。市だけでできない部分もあると思うので、こういった部分は、市として声をあげていただいて、行政も努力していただけたらと思います。
- 副市長 バイパスについては、令和6年度までに野田ICから大代方面の4車線化を完成させたいと表明されており、現在は大井川の橋りょう部分の4車線化を進めています。陸の部分も用地の確保はできているものです。  
金谷御前崎連絡道路（金谷相良道路（473号））については、菊川ICを倉沢ICまで延ばす工事が決まっており、菊川ICと大代ICはフルインター化する予定です。空港の方から連続して、国1バイパスまでアクセスし、それから大代インターを抜けて、新東名の方へ連絡するようになります。  
それに併せて、県の方でも大代インターから新東名の新金谷インターチェンジの間を4車線化すべく、用地交渉等を市と協力しながらやっています。  
少しずつ目に見える形で出来てくると思います。
- 市長 島竹下線の拡幅も進んでおり、金谷地域では、国や県の力を借りて、すごく大きな工事が行われている所です。
- C 構成員 島田ICTコンソーシアムの話があったので、補足させていただきます。人材育成と産業ICT導入促進の部分で携わっていますが、今年は講座や講習会、訪問活動等が新型コロナウイルスに邪魔をされてしまっています。  
そんな中でも、市商工課の協力もあり、企業懇話会にサポートしてもらい、市内全体での人材不足解消に向け、市内企業と高校生との接点を作れないかと考えているところです。  
また、市内企業ではコロナ禍によるデジタル化が進んでおり、いかに非接触で完結するかが課題であると考えています。
- 市長 今、デジタル化の話が出ましたが、島田市では日本で初めて自治会でのオンライン会議をやっています。その辺りでいかがですか。

- D 構成員 2か月に1度定例会がありますが、半分以上がオンラインで参加しています。また、大きな町内では、各組への連絡もオンラインを活用しているところ です。皆様関心を持って積極的に活用していると思います。
- 市長 自治会でのオンライン会議については、全国から問い合わせを多くいただい ています。自治会に対しては、上限 20 万円で最初の環境整備を支援し、今 年度は通信料を補助しています。ほとんどの自治体で整備が完了しています。
- E 構成員 資料1の基本目標2にて「緑茶化計画の取組について知っていると答えた市 民の割合」を指標に置いています。この計画は事業者が工夫して商品を開 発したりして進めているものと思います。この計画はいつから始まったので しょうか。また、どのように相対的な評価を行っているのですか。
- 事務局 「島田市緑茶化計画」は、平成27年度から取り組んでいます。 相対的な評価については、市内でも緑茶化計画の取組の認知度を更に上げて いきたいということで、市民意識調査というものの中で認知度についてのア ンケートを実施し、毎年評価をしているものになります。 またそれ以外にも、色々な商品が販売され、飲食店の売上や観光による集客 がありますので、そういったところで、売上高などの具体的な経済波及の実 績値というものを積み上げて評価しながら、進めているところです。
- F 構成員 今年も島田市のプログラミング教育の一環である、中学生向けプログラミン グ講座に情報ビジネス科の2～3年生がアシスタントとして参加します。 在校生は、半分程度が就職希望です。地元で就職をしたい、住みつづけたい という生徒が多く、また、近年は事務職よりも製造ラインで働きたいという 子が多いです。地元との連携で、コロナ禍であっても、第一希望の業種に行 けない生徒は百人中数人といた状況でありがたいと感じています。
- D 構成員 新聞報道で地価評価が下がっているとありました。新型コロナウイルスの影 響により経済活動は低下しましたが、デジタル化が進み、在宅勤務などによ りオフィスの減少・縮小が顕著であると感じています。一方で、高齢化と人 口減少はますます進んできているので、地域によって、もう少し集約型のま ちづくりをしなくてはならないとも感じます。立地適正化計画をまちづくり の政策に連携させるべきではないでしょうか。また、まち・ひと・しごと創 生の中でも、連動したら良いと思います。
- 市長 おっしゃるとおり、これから人口が減っていく中において、空き家や密度の 低い地域が増え、そういった場所では小さな商店は仕事を続けることができ なくなってしまう。 皆さんが歩いて買い物ができ、病院があって、交通の利便性が良い、過ごし やすい環境を整えるには、一定の範囲内で、ある程度の人口密度を維持しな がら、まちづくりを進めなくてはなりません。 一定の人口密度を維持することで、皆さんの過ごしやすい環境を維持しよう というのが立地適正化計画です。

- 副市長 コンパクト・プラス・ネットワークという考え方では、島田駅の周辺だけではなく、金谷、川根にも残すべき拠点を置き、拠点同士を交通ネットワークあるいは通信ネットワークで繋ぎ合わせていきます。  
また、拠点にもさまざまな種類があり、全ての機能をそろえるのではなく、コミュニティ中心の拠点もあります。通信インフラの機能と併せて、周辺を一体的に整備し、さらに真ん中に住むことに対しインセンティブを付与することで、拠点到寄ってきてもらう考えであります。  
ある程度まとまった人口でその地域の商売を成り立たせる、密度経済という考え方なのですが、時間をかけて進めていこうという視点で進めています。
- 事務局 総合戦略においても、コンパクト・プラス・ネットワークについて記載しています。（p.31）また、拠点の形成やまちなかの空間づくり等を位置付けて計画しているところです。
- G構成員 デジタルトランスフォーメーション（DX）の話が出ましたが、これは本質的な体質を変えないと推進できないと考えます。自治体として色々と進めているようなので、成功事例を発信することで、市内企業も変わっていけるのではと思います。
- 事務局 市としては、各種申請のデジタル化などにより、市民の目に見える形で推進していきたいと思っています。島田ICTコンソーシアムなど民間の皆様と一緒に進めることが、より目に見える形で進める近道だと思います。
- 市長 まずは、DXで生活が便利になったことを市民に実感してもらうことが重要であると思います。今年度は公共施設の予約申請をデジタル化し、今後は保育園の申し込みだとかプッシュ型情報提供などを実施し、DXにより市民生活の利便性向上を図っていきたいと考えています。
- H構成員 学校教育として何ができるか考えながら参加していました。  
基本目標3の指標で「自分にはよいところがあると答える児童・生徒の割合」が基準値を上回ったとありましたが、評価の出ているものも見直すことでよりよい戦略になると思います。  
資料1 p.25の今後の取組と施策展開の欄では、「個に寄り添った」という表現があり、自尊感情を高めるには重要なことでもあります。そこで、また別の指標として、「学校には島田市の自然歴史文化等とその在り方を学ぶ機会と、安全安心がある」というような指標を設定すると、学校教育の実学的な部分が盛り込まれ、具体的な実績が出るのではないかと思います。
- 教育長 まち・ひと・しごと創生総合戦略と学校教育の兼ね合いというのは、いかに地域のことが好きな子どもを育てるか、ということだと思います。平成27年度の成人式のアンケートで、島田が好きと答えた人のうち、82%が島田に住みたいと答えていました。地域が好き人はその地域に住み続ける可能性がとても大きいということです。  
夢育・地育やコミュニティスクールを推進しているのは、そのためです。

また、川根地区で文化の研究をやったことがあり、地域を好きな子は自己肯定感が高いという結果が出ていました。

今後も、地域と共に学校教育はあるべきだと考えています。

○I 構成員

人口が減っていく中で、親として地域で何が出来るかということを考えました。子どもが島田市に住んでくれるか、将来帰ってきてくれるかが大切です。自分の住む川根地区では青年団が非常に頑張って地域を盛り上げています。その中で、夏祭りや夏のフェスティバルといった子どもを巻き込むイベントを開催してくれています。そして、そういったイベントに参加をしてみると、やっぱり子どもの表情がとてもよく、元気に活動しています。

地域の中でどれだけ子どもを巻き込むことができるか、子どもが活躍できる場所を提供できるかが重要であると考えます。

地域と連携し、子どもに地域を好きになってもらえるようなサポートをしていただければ有難いと思います。

○J 構成員

これからのアフターコロナにおいて、人々が地方に広がっていく中、中心市街地に企業を集めるのか、他の地域に集めるのか、またはテレワークを進めていくのか、それとも大企業を誘致するのか、今後重要な舵取りになると思いますが、今後の経済活動はどのように考えていますか。

○市長

多様な働き方の時代ですので、経済活動の推進については、どれか1つというものではないと考えています。

○事務局

一つに絞るということではないかなというところは感じております。今年度からサテライトオフィスの補助金を用意しました。今までは工場の誘致といったところを補助していたのですが、そこから幅を広げたという形になります。また、他には、新しい分野に取り組みたい、事業展開を図りたい企業に対して、新たな支援制度を設けました。

中心市街地も大変な状況ですが、また人が動いてくれば、商業だけではなく、そこに住む人を増やしたり過ごす人を増やしたり、多様な行動の中心の場所というような考え方ができるのではないかと考えています。

それぞれの視点の中でまちの底上げをしていくことが必要になってくるものと考えておりますので、全体的な視点で取り組んでいきたいと考えています。

○K 構成員

人口ビジョン (p. 102) にて、「今後めざすべき『まち』の姿」として「医療が充実したまち」があげられている。これに対しては、島田市総合医療センターができたので、PRしていくとよいと思います。

また、子育て世代にDXを絡めて、子育て世代ならデジタル申請ができる、というような仕組みにしてアピールしていくとよいのではないのでしょうか。

人口動態については、評価書の中で転入超過傾向と言っていましたが、年代でみると10代後半から20代前半にかけては転出が多い傾向にあると思います。大学を卒業し、いかに帰ってきてもらうか、どのように大学生と企業を繋ぐかだと思います。

学生は地元に戻りたくてもどこに就職したら良いか分からないということがあるので、そこを繋ぐ手伝いを色々やっていきたいと思っています。

- 市長                   そろそろ終了の時間が近づいてきております。まだ発言されていない方で、ぜひこれだけとはいうことがあります方は手を挙げていただければと思いますすがいかがでしょうか。
- C 構成員               専門性の高い仕事だと近隣市町だけでは人材が足りなくなってしまう。採用側も希望する側も全国区である。そこで、行政が、首都圏からだけでなく、市外からの移住者に対するサポートや特典を付与してくれば市内企業の雇用につながると感じました。
- 市長                   移住定住にも力を入れているところです。中古住宅取得の補助は実施しているのですが、中山間地域への移住と、首都圏からの移住促進ではやり方が違ってくるということも考えながら進めております。
- L 構成員               緑茶化計画は中学生のころから知っていて、見た目も可愛く、よいと思っています。そして、今回あまり知られていないのだということに気がきました。緑色は印象に残るので、島田市内で緑色のものをもっとたくさん見られるようになると良いと思いました。
- 副市長               先ほどご審議いただいたとおり、令和2年度から調査を開始しまして、令和2年度の実績は19.4%でありました。市としては40%まで上げていきたいという目標を掲げ、少しでも知っていただけるよう、取組を推進してまいります。
- 市長                   まだまだ御意見は尽きないかと思いますが、予定の時間を少し超過してしまいました。最後にオブザーバーとして御参加いただいております中部地域局鈴木局長様から本日の会議全体を通して御意見をいただきたいと思います。
- 鈴木局長               島田市について親身になって考えている方々の話を聞けるということで大変楽しみに参加させていただきました。  
島田市の総合戦略は令和2年度にスタートしましたが、新型コロナウイルス感染症対策に人とお金をかけなくてはならず、計画の初年度から、優先する施策を大きく変えなければいけないといった影響を受けており、事業実施や評価には大変苦労したと思います。  
そのような中において、密を避けるため、計画していたイベントや事業が中止・延期・規模縮小してしまったことなどが明確に記載されていて、分かりやすい評価書になっていると感じました。  
全国の自治体では、実績が全然良くない、または評価自体をやめたという自治体がたくさんある中で、コロナ禍であっても基準値を上回る項目が6割を超え、着実に推進したことも素晴らしいことだと思いました。  
これには一つ理由があると思ひまして、島田市は縮充という考え方を基本方針に掲げており、必要な施策を選択し、そこに集中して実施していくのだという考えを持っています。本当に必要なものをちゃんと選択して実施しているからこそ、コロナ禍の影響を受けない成果が出ているのではないかと思います。

一方、気になった部分は、5か年計画の1年目で施策の目標9項目中5項目が既に目標を達成しているS評価になっているということです。これについては、目標設定の見直しや数字に捉われない本質的な部分の検証をしていけばよいと思います。

本日お集まりの皆様は、まちを良くするためのキーパーソンです。中部地域局はこういった地域の取組を一緒になって進めていきますので、よろしくをお願いいたします。

○市長

鈴木局長ありがとうございました。

本日は、皆様からも前向きな意見、提案が出され、とても有意義な意見交換の時間になったと思います。

本日、皆様からいただいた御意見については、今後のまちづくりに生かして参ります。

皆様の御協力により、本日の議事につきましては、無事終了いたしました。ありがとうございました。

それでは、会議の進行を事務局へ戻します。

○市長戦略部長

ありがとうございました。

最後に、次回、市民会議ですが、令和4年3月22日（火）午後4時から開催を予定しております。

委員の皆様には、近くなりましたら、改めてご連絡をさせていただきます。

それでは、以上をもちまして「令和3年度第1回島田市まち・ひと・しごと創生市民会議」を閉会とさせていただきます。

本日は、ご多用の中、ご出席いただきまして、ありがとうございました。お気をつけてお帰りください。

～終了（17:40）～